

# 令和5年度 自然再生協議会全国会議の 開催について



令和5年11月7日（火） 13:00～20:00

11月8日（水） 9:00～12:30

熊本県阿蘇市（阿蘇草原再生協議会）

## 令和5年度自然再生協議会全国会議の概要

開催場所：熊本県阿蘇市

11/7（火）現地視察

- ・阿蘇の草原（大観峰・木落牧野）

11/8（水）意見交換会

- ・阿蘇草原保全活動センター  
草原学習館

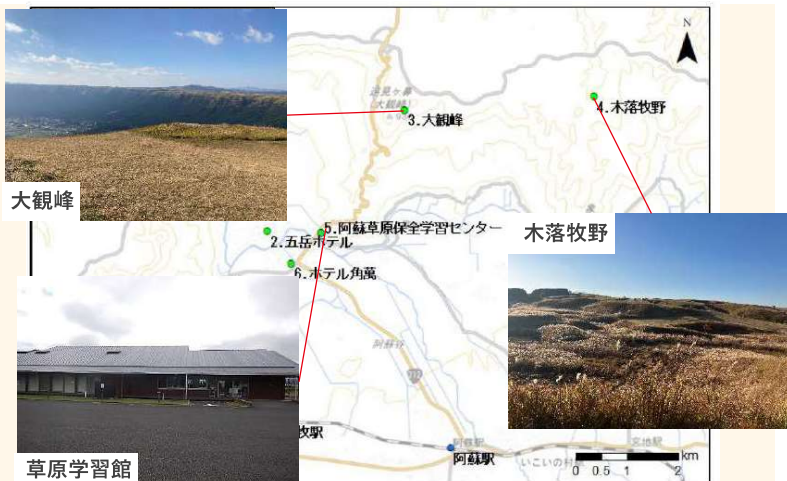
### スケジュール

11/7（火）現地視察

- ・大観峰における草原の概要説明
- ・木落牧野における作業体験

11/8（水）意見交換会

- ・阿蘇における草原再生について
- ・草原再生と県・企業の関わり方
- ・他協議会からの情報提供
- ・自然再生基本方針の見直しに関する意見交換



### 参加者（全77名）

- ・自然再生協議会：19協議会 35名
- ・協議会を目指す組織：2団体 3名
- ・自然再生専門家会議委員：4名
- ・阿蘇地域の関係者：22名
- ・関係省庁：3名
- ・事務局：10名



# ホスト協議会：阿蘇草原再生協議会

対象地域：熊本県

再生課題：二次的草原の再生



## あそそいうげんさいせいきょうぎかい 阿蘇草原再生協議会

再生  
目標

草原の恵みを持続的に活かせる仕組みを現代に合わせて創り出し、かけがえない阿蘇の草原を未来に引き継ぐ。

- 事務局  
環境省九州地方環境事務所
- 対象地域  
熊本県阿蘇郡南阿蘇村、小国町、南小国町、産山村、高森町、阿蘇市  
(阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域内)
- 構成員数：251人 (H28.3)
- 協議会：H17.12.2 設立
- 全体構想：H19.3.7 策定 (第1期)  
H26.3. 策定 (第2期)
- 実施計画：H21.3.4 策定 (野草地)  
H25.3.12 変更 (野草地)  
(2期目)  
H23.3.10 策定 (草原湿地)  
(H31.3現在)



阿蘇の草原は、東西約18km、南北約25km、周囲100km以上に及ぶ世界最大級のカルデラ地形の内外に広がっています。この草原は人々が利用することによって成立したものであり、人々が手を入れることにより維持され、草原景観と多様な動植物が生息・生育する豊かな草原環境が守られてきました。

しかし、農業形態や生活様式の変化などにより、草原維持のための一連の作業を行うことが困難になり、草原面積の減少や荒廃が目立つようになりました。

このため、長い間草原をうまく利用することにより守られてきた草原環境を再生し、次世代へ引き継ぐための取組を進めています。

### 自然再生の手法

- 草原の牧野利用の維持管理
- 草原環境の保全
- 草原学習の実施
- 野草の多様な資源利用の促進
- 草原の適正な観光利用の検討
- 草原保全のための支援体制の構築



オオルリシジミ (撮影：寺崎昭典)



ハナシノブ



輪地切りの作業



野焼き風景

## 11/7 (火) 開会・草原再生の現地視察①大観峰

- ・ カルデラ内の北阿蘇と阿蘇五岳を見渡せる展望所“大観峰”に集合し、今年度の全国会議を開会
- ・ 阿蘇の草原の全景を確認するとともに、その成り立ちについて解説を受けた



開会挨拶

環境省自然環境計画課  
石川 調整官



ホスト協議会挨拶

阿蘇草原再生協議会  
高橋 会長



### 阿蘇草原の成り立ちの解説

環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所  
山下 企画官



阿蘇は古来からのライフサイクルにより、標高の高いところから「草原」「森林」「里地」「水田」の順に土地利用が成立している



## 11/7（火）草原再生の現地視察②木落牧野

- 阿蘇の草原を構成する牧野組合である“木落牧野”を来訪
- 草原維持の実態について説明を受けたのち、草原再生の代表的な活動である野焼きの際に延焼を防止するための“草寄せ”の作業体験を行った



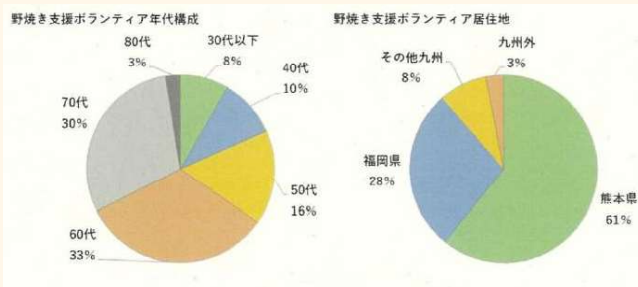
草原再生の現場の説明

阿蘇グリーンストック  
増井 専務理事



牧野組合長 挨拶

木落牧野 園田 組合長



阿蘇グリーンストックは、阿蘇の緑の大地を国民共有の生命資産として捉え、約170ある牧野のうち60超について野焼き支援ボランティアを実施している



“草寄せ”体験

阿蘇グリーンストック及び地元ボランティアの指導のもと実施した

## 11/8（水）自然再生協議会による意見交換①阿蘇における草原再生について



阿蘇草原再生事業の全体概要の説明

環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所  
山下 企画官

- 「10年以上野焼き等の維持管理作業が継続可能」と答えた牧野以外は、30年後に管理放棄されると仮定すると、面積比で約6割減少することとなる
- R3に30年後の目標として「今と変わらない規模の阿蘇草原を残す」と設定し、維持管理に必要な財源・労力を確保するために取組を実施している



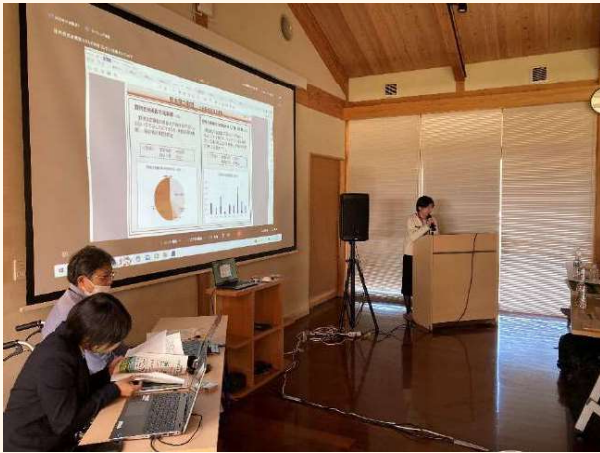
阿蘇の草原を構成する牧野の現状

下市牧野 中村 組合長

- 多くの牧野組合では、あか牛の放牧の減少や、若手後継者不足など、草原の管理に関する課題を抱えており、このような課題を受け同牧野では、次世代育成に向けた環境教育等の取組を実施している
- 牧野の上にある水源涵養林の間の輪地切りは非常にネックであるが、今は水源涵養林の指定解除を依頼するなど、協議会・南阿蘇村などと協力して課題解決を図っている



## 11/8（水）自然再生協議会による意見交換②草原再生と県・企業の関わり方



### 熊本県の取組～阿蘇草原再生事業～

熊本県地域振興課 岸本 課長補佐

- ・ 県では、阿蘇草原応援企業サポーター制度により、民間企業の活動への参加を促し、担い手や財源の確保を図っている
- ・ 今年度から「阿蘇草原維持再生ICT 等活用促進事業」を指導し、野焼き作業の省力化に向けたドローン等を活用した取組を支援している



### KMバイオロジクスの環境保全への取組

KMバイオロジクス(株) 永田 総務部長

- ・ 同社では自主的にボランティア活動に参加する社員が多く、会社として研修費用や装備の購入についてサポートを実施している
- ・ 「自然環境の保全」は企業のサステナビリティ活動として重要なテーマであり、阿蘇の草原を通じたカーボンオフセットクレジットなど、企業との連携を意識した取り組みにも期待している

## 11/8（水）自然再生協議会による意見交換③他協議会からの情報提供 等



### 霞ヶ浦における自然再生の取組みと環境管理における新たな課題

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会 福島 会長

- ・ 同協議会では各種の取組により、湿地環境に依存する希少植物が生息するようになった
- ・ 霞ヶ浦では特定外来生物の侵入・拡大が顕著であり、人力の除去が追いつかず大きな課題となっている



ここまでの発表を受けて、参加者により活発な質疑応答が行われた。

## 11/8（水）自然再生基本方針の見直しに関わる意見交換・閉会

- 令和6年度に4回目の見直しが予定されている“自然再生基本方針”について、事前に実施したアンケート結果等を踏まえて意見交換を実施

### 【意見（抜粋）】

- 基本方針の見直しにおいて、再生可能エネルギーのゾーニングのための詳細についての記載を盛り込んでほしい。
  - 自然環境学習に関して地域に通う方を想定した記載となっているが、それに限定する必要はないと思う。
  - ネイチャーポジティブは生物多様性の損失を止め、回復を軌道に乗せるということであり、大きなキーワードになるだろう。
- 専門家委員から講評を賜ったのち、今年度の会議を閉会した



大河内 委員



志村 委員



意見交換会の様子



高山 委員



鷺谷 委員

専門家委員 講評

### 閉会挨拶

阿蘇草原再生協議会  
山内 会長代理